

一度は見ておきたい重要文化財シリーズ

京都の旅編
その2



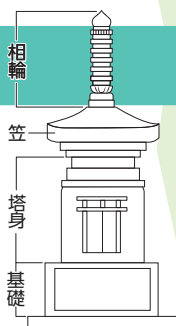
今回は「一度は見ておきたい重要文化財シリーズ」と題し、歴史的価値、学術的価値の高い石仏や石塔をご紹介します、その魅力に迫っていきます。

観光情報も添えていますので、ぜひ実際に足を運んでいただき、その雰囲気を感じ、目で愉しみ、心で歴史に触れてみてはいかがでしょうか？

安養寺宝塔(京都府京都市東山区円山町)

安養寺(あんようじ)は、京都市東山区、円山公園の北東隅に位置する、時宗(じしゅう/鎌倉時代末期に起こった浄土教の宗派)の寺院です。浄土宗の開祖である法然(ほうねん)と、その弟子で浄土真宗の開祖である親鸞(しんらん)の念仏発祥の地「吉水草庵(よしみずそうあん)」としても知られています。

この安養寺の境外にある吉水弁財天堂(よしみずべんざいてんどう)の裏手に静かに建つのが、安養寺宝塔です。



宝塔とは

宝塔とは、仏塔の建築形式の1つで、円筒型または瓶や壺型の軸部(塔身)に方形の笠(五輪塔の火輪のように四角錐に近い形の屋根)が乗り、頂上に相輪(そうりん)と呼ばれる長い柱のような飾りがある形式の一重塔をいいます。

特徴

花崗岩(かこうがん)製で、塔高約3mある大きな宝塔です。基礎は失われており、平らな自然石の上に塔が据えられています。この自然石を除いた高さは約2.4mです。塔身は壺型で美しい曲線を示し、その正面に扉を開いたように彫られた窪みには、釈迦如来と

多宝如来の2体の如来坐像が半肉彫り(半浮き彫り)されています。

これは、法華経の中の「見宝塔品」という章にある「法華経を説く釈迦如来の元に多宝如来が現れ、並坐して説法を続けられた」という内容を表現したものです。笠は軒が厚く、ゆるやかな反りを見せており、相輪は凹凸がしっかりと刻み出されています。

歴史

安養寺宝塔は鎌倉時代後期に建立されたと言われてい
ます。安養寺は、元は延暦年間（782～806）に最澄（さ
いちょう／日本の天台宗の開祖）が開創したと伝えられて
います。



ここに法然が吉水草庵を建てて浄土宗の教えを広め、親鸞も入信。その後一度廃れ
たところを、建久年間（1190～1199）に天台宗の高僧である慈鎮和尚（じちんか
しょう／百人一首にも登場する前大僧正慈円）が復興・回復させ「慈円山 安養寺」とし
ます。更に至徳年間（1384～1387）に時宗の僧であった国阿（こくあ）により再興
され、今の安養寺が残っています。このような歴史があり、宝塔は「慈鎮和尚多宝塔」
とも呼ばれています。1960年2月9日に国の重要文化財に指定されました。

周辺の観光情報



安養寺の正面に広がるのが円山公園です。八坂神社、知
恩院、高台寺などにも隣接する円山公園は、公園全体に
「文化財」としての価値があるとして、国の名勝に指定され
ています。円山公園は桜の名所でもあり、公園の中央にあ
る「祇園枝垂桜」（正式名称「一重白彼岸枝垂桜（ひとえし
ろひがんだれざくら）」の樹齢約80年にもなる大木に咲
く桜は見応えがあります。そのほか、ソメイヨシノ、ヤマザクラ、ヤエシダレザクラなど
約630本の桜があり、夜のライトアップも含め、毎年多くの花見客で賑わいます。

園内は回遊式日本庭園となっており、歩くだけでも京都らしさを感じることができま
す。また、隣接する社寺では静かに息づく歴史を感じられるとともに、1年を通して庭
園の美しさや季節の行事などを楽しむことができます。

交通アクセス

- 〈バス〉市バス・京阪バス：「祇園」下車、徒歩約15分。
東（八坂神社、円山公園方面）へ
- 〈鉄道〉京阪電車「祇園四条」駅より徒歩約20分
阪急電鉄「京都河原町」駅より徒歩約25分
京都市営地下鉄東西線「東山」駅から徒歩約17分
- 〈自動車〉名神高速道路「京都東IC」より約30分



まとめ

今回は、京都府にある安養寺宝塔をご
紹介いたしました。石塔とその土地に刻ま
れた歴史に触れると、何百年も遡ったその
時代に確かに生きていた人々の息遣い
を感じることができます。

また、世の中の安寧を祈り、人に感謝し、
故人を偲ぶ思いの強さが、確かな造形を
残している石工の技術とも深く関わって
いるのだろうと思わずにはいられません。

人と神仏との繋がりを重んじる、先人の
思いが受け継がれてきた石塔。時代の流
れが残るその佇まいを、ぜひ現地に足を
運んで体感してみたいはいかがでしょうか。